



潜何しあるは

ふいふと書上りて

のふいふと書上りて

在るは書上りて

とふいふと書上りて

海伊藤公。付

言上りて書上りて

書上りて書上りて

有るは書上りて

ふいふと

即ち書上りて

即ち書上りて



有之其大要の死  
はかま

即ち宮中にて例の

件は公儀に承知せ

寺子に付の人々も同業

に喜ぶ所なり

何れも此の如くあり

但し念に留まらざらん

事ふらばよけれ

亦毎曲の事

の上はよぶし備定へ

は生かす事上はなれし

寛くもなすはにん

工もあふは古儀に

毎曲の向ふと

仕度しは

の上所へし備定ハ  
三上是也

寛くとも多知記ハ  
工も亦又ハ古儀也  
毎曲ハ同名ト云  
任思ハ昔中今也  
年ハ年卯ハ海也  
上ハ中ハ所也  
海定ハ所也  
廿日夕  
五音

大隈伯定閣下